

日本アフリカ学会
第 46 回学術大会プログラム
2009 年 5 月 23 日（土）・24 日（日）
東京農業大学 世田谷キャンパス

5 月 23 日（土）

時間	座長	A 会場（214 教室）	座長	B 会場（215 教室）	座長	C 会場（216 教室）
10:00	若月利之	A1 藤本武 人間環境大学 アフリカにおけるタロイモ栽培 ：エチオピア西南部マロの事例 からの考察	若杉なおみ	B1 新山智基 立命館大学大学院 ブルーリ潰瘍にみる顧みられな い熱帯病の現状と課題 ：ガーナ共和国の事例を中心に	落合雄彦	C1 澤田望 バーミンガム大学 「進歩」のための「真の職業」 ：植民地初期ラゴスの新聞から
10:15		A2 縄田浩志 総合地球環境学研究所 スーダンにおける外来移入種 マメ科プロソピスの問題点		B2 神谷保彦 長崎大学 アフリカにおける保健システム 強化の課題		C2 桑島穂 大阪市立大学大学院 アフリカ人エリートと新聞 ：20世紀初め英領ゴールド・コ ーストの「教育された原住民」
10:30		A3 E.M. Mgonja et al. Tokyo University of Agriculture Rice and <i>Rice yellow mottle virus</i> Study in ARI-Katrin, Tanzania		B3 姜明江 京都大学大学院 ザンビア農村部のハンセン病 回復者定着村にみられる ヘルスケア		C3 首藤あずさ 京都大学大学院 イギリス奴隷解放はシエラレオ ネ・クリオに何をもたらしたか ：アデレイド・ケイスリー・ヘ イフォードの物語を中心に
10:45		A4 Regina Hoi Yee Fu University of Tokyo Corralling Contract of Fulani Herders and Nupe Farmers in Central Nigeria		B4 亀井伸孝 東京外国語大学 コートジボワール共和国の障害 者調査：生計と労働		C4 榎本珠良 東京大学大学院 通常兵器の規制とアフリカ
11:00	ポスター発表コアタイム (別紙参照)					
12:00	昼食 評議員会（310教室）					
13:30						

5月23日(土)

時間	座長	A会場	座長	B会場	座長	C会場
13:30	児玉由佳	A5 荒木茂 京都大学大学院 カメルーン東南部のサバンナー森林境界地域における耕地化の現状(第2報):新たなアフリカ農村開発の視点から	山田肖子	B5 澤村信英 広島大学 ケニアの農村コミュニティから見た小学校教育の意味と役割	武内進一	C5 吉田昌夫 日本福祉大学大学院 アフリカ研究と独立後50年のアフリカ
13:45		A6 上田元 東北大学大学院 タンザニア・メル山腹農村における参加型森林管理の諸問題		B6 川口純 早稲田大学大学院 マラウイにおける初等教員養成課程の変遷が教員のパフォーマンスに与えている影響について:主にPre-service training とIn-service training の違いに着目して		C6 川端正久 龍谷大学 アフリカの独立と日本の報道
14:00		A7 渡邊芳倫ほか 近畿大学 ナイジェリア、ユーカリ・マツ人工林の木材と薪炭の利用価値の推定		B7 千葉みずき 東京学芸大学大学院 ケニアにおける成人教育:現地NGO・KALAの事例	米田信子	C7 砂野幸稔 熊本県立大学 アフリカ地域研究と言語問題
14:15	末原達郎	A8 高橋遼ほか 東京大学大学院 西アフリカにおける小型耕耘機を利用した小規模灌漑水田開発の経済的および社会的影響評価:ナイジェリア国ビダ市近郊の内陸小低地を事例にして	吉田栄一	B8 前田美子 大阪女学院大学 日本におけるアフリカのイメージ:中学生を対象とした調査から		C8 福西隆弘 アジア経済研究所 アフリカの開発戦略論:近年における議論の変化
14:30		A9 友松夕香 東京大学大学院 ガーナ・ダゴンバ人農村社会の世帯経済		B9 佐藤千鶴子 アジア経済研究所 看護師の国際移動と医療人的資源政策:南アフリカの事例	大林稔	C9 高倍宣義 アフリカ協会 悪化するコンゴ(民)東部情勢
14:45	山極寿一	A10 八木繁実ほか 多摩アフリカセンター アフリカの昆虫食(5) ヴィクトリア湖のレイク・フライ		B10 石原豊一 立命館大学大学院 スポーツ労働移民の諸相:あるアフリカ人「プロ野球選手」の語りから		C10 坪井麻記 内閣府国際平和協力本部事務局 アフリカ大湖地域の紛争における文民(弱者)の保護
15:00		A11 五百部裕 相山女学園大学 アフリカ産コロブス類の生息環境		B11 菅野淑 名古屋大学大学院 日本に生きるアフリカ人ミュージシャン:在日セネガル人ミュージシャンの生き抜く術	勝俣誠	C11 岩田拓夫 宮崎大学 アフリカの民主化と選挙:ベナンの大統領・国民議会・地方選挙の比較研究を通して
15:15		A12 仲谷英夫ほか 鹿児島大学 ケニア北部産有蹄類化石類歯のメゾウェア解析による後期中新世古環境復元		B12 伊藤紀子 東京大学大学院 ケニアにおける人口移動と地域経済開発		C12 田中正隆 高千穂大学 今日のジャーナリズム:民主化以降ベナンにおけるメディアと政治
15:30						

5 月 23 日 (土)

時間					
15:45	公開シンポジウム（百周年記念講堂） 「アフリカ農業・農村の未来にむけて：現場からのアプローチ」 パネリスト： 菊野日出彦（国際熱帯農業研究所） 島田周平（京都大学） 平野克己（アジア経済研究所） 司会： 高根務（東京農業大学）				
17:45					
18:00	懇親会（すずしろ・カフェテリアグリーン）				
20:00					

5月24日（日）

時間		A会場（214 教室）	座長	B会場（215 教室）	座長	C会場（216 教室）
10:00	星野光雄	A13 門村浩 東京都立大学 地球変動の中のアフリカ ：2008/09年シーズン異常気候 イベント	小川了	B13 藤井千晶 京都大学大学院 東アフリカ沿岸部における「新しい」伝統医療の形：イスラーム復興の潮流の中で	丸山淳子	C13 船田クラーセンさやか 東京外国語大学 南東部アフリカ現代史試論 ：モザンビーク解放闘争から再考する
10:15		A14 宮本真二 滋賀県立琵琶湖博物館 アフリカと南アメリカの半乾燥地域における環境変動期の対比		B14 梅津 綾子 名古屋大学大学院 結婚後の<子>と<親>の関係 ：ナイジェリア・ハウサ社会における<養取・養育>研究		C14 亀井哲也 野外民族博物館リトルワールド 地名再考運動 ：南アフリカ、ンデベレの事例を中心に
10:30		A15 山縣耕太郎 上越教育大学 ナミビアにおける植生衰退と土壌環境条件	松村圭一郎	B15 吉田早悠里 名古屋大学大学院 差別のもとでの自己表象をめぐる自発的实践 ：エチオピア南西部カファ社会に生きるマンジョのプロテスタントへの改宗	池谷和信	C15 海野るみ お茶の水女子大学 “indigenous”概念の再検討 ：「先住民族」と「土着の知の体系」のあいだ
10:45		A16 水野一晴 京都大学大学院 ナミブ砂漠の季節河川、クイセブ川流域の環境変化と植生遷移		B16 上窪一世 工学院大学 アパルトヘイトの分析「死角」 ：セクシャリティからの問いかけ		C16 丸山淳子 京都大学大学院 セントラル・カラハリ地域における先住民運動の展開
11:00	総会（A会場：214教室）					
12:10	昼食					
13:00	ポスター発表コアタイム （別紙参照）					
14:00						

5月24日(日)

時間	座長	A会場	座長	B会場	座長	C会場
14:00	上田元	A17 佐々木明彦ほか 国士舘大学 中央ケニア, Laikipia 平原における斜面地形と地表環境の変化	真島一郎	B17 山本麻紗子 京都大学大学院 西部ナイジェリアにおける住民組織の現代的役割	鈴木裕之	C17 高村美也子 名古屋大学大学院 タンザニア ボンデイ族の口頭伝承:物語の中で語られる男女
14:15		A18 大月義徳ほか 東北大学大学院 中央ケニア, 亜熱帯性高地の地形変化		B18 児玉由佳 アジア経済研究所 エチオピア・アムハラ州農村部の女性世帯主と住民組織		C18 松平勇二 名古屋大学大学院 ジンバブエ大衆音楽と民衆の意識:解放組織とトーマス・マブフモによる「闘争の歌」の歌詞分析
14:30		A19 湖中真哉 静岡県立大学 ケニア国内避難民と地域セーフティ・ネット		B19 中山節子 宇都宮大学 読み換えられる水景:マラウイ湖漁撈者による先住性の政治		C19 清水貴夫 名古屋大学大学院 ストリートの少年たちと NGO:ブルキナファソ・ワガドゥグにおける青少年の生活とKEOOGOの支援活動の事例
14:45	津田みわ	A20 内藤直樹 京都大学大学院 国会議員選挙後に北ケニア出現した新たなエスニック・アイデンティティ	竹村景子	B20 竹村景子 大阪大学 女性の語りから読み解く社会(1)あるザンジバル女性の政治活動:革命とイスラームがもたらしたもの		地域開発フォーラム 生活資源へのローカルガバナンス 司会:白石壮一郎 関西学院大学大学院 1.食糧増産計画をめぐる土地利用の展開:セネガル河下流域、T村の事例から高橋隆太(京都大学大学院) 2.グローバルな野生動物保全政策とマサイの土地利用:南部ケニアを事例に目黒紀夫(東京大学大学院) 3.コミュニティ主体の森林資源管理の可能性と課題:ウガンダ、マビラ森林保護区の事例から一條洋子(京都大学大学院) 4.砂漠化対処事業における植林モデル事業の検討:チャドにおける環境 NGO の事例から石山俊(総合地球環境学研究所) コメンテーター:飯田卓(国立民族学博物館)
15:00		A21 松村圭一郎 京都大学大学院 ザンビアにおける食糧安全保障体制:南部州の食糧援助の事例から		B21 井戸根綾子 大阪大学 女性の語りから読み解く社会(2)ケニア・ラムの女性と選挙:女性の「語り」を通して		
15:15	望月克哉	A22 林俊行 国際協力機構 紛争経験国における統治(ガバナンス)の脆弱性と平和構築:シエラレオーネにおけるエネルギー電力セクターの事例		B22 宮崎久美子 東京外国語大学 女性の語りから読み解く社会(3)あるザンジバル女性のライフヒストリーから		
15:30		A23 浅野英一 摂南大学 ケニアの道路維持管理技術者に関する新たな人材育成手法へのチャレンジ		B23 大池真知子 広島大学大学院 女性の語りから読み解く社会(4)ウガンダの母が記す「メモリーブック」:エイズ、自己、家族		
15:45		A24 西浦昭雄 創価大学 南アフリカ黒人中間層の台頭と影響		B24 戸田真紀子 京都女子大学 女性の語りから読み解く社会(5)教育現場と保護者の声		
16:00		A25 佐久間寛 東京外国語大学大学院 「その子孫、あの奴隷野郎」:21世紀転換期ニジェール西部農村地帯における共同体、首長、モラル		B25 Jean-Claude Maswana JICA Research Institute Global Financial Crisis and Development Prospects in Sub-Saharan Africa		
16:15			高根務			

ポスター発表

コアタイム：

5月23日（土）11:00～12:00

5月24日（日）13:00～14:00

	D会場（306 教室）		E会場（307 教室）		F会場（308 教室）
	D1 若月利之 近畿大学 アフリカにおける適地適田開発 による稲作の緑の革命実現 への道		E1 重田眞義 京都大学大学院 アフリカ在来知とその射程 ：在来知とポジティブな実践（1）		F1 網中昭世 津田塾大学 モザンビークの社会・文化変容 と移民労働：越境するマシヨッ ビ伝統芸能の軌跡
	D2 小手川隆志ほか 高知大学 ベナン国南部ウエメ川氾濫源に おける稲作システム		E2 西崎伸子 福島大学 エチオピアにおける野生動物 保全 ：在来知とポジティブな実践（2）		F2 栗田和明 立教大学 東部アフリカにおけるタンザニ ア人交易人の活動 ：タンザニア・ザンビア・マラ ウィを結んで
	D3 志和地弘信ほか 東京農業大学 ヤムイモの生産性を向上させる 新技術		E3 金子守恵 京都大学大学院 エチオピア西南部における生 活を営む技法 ：在来知とポジティブな実践（3）		F3 中村亮 総合地球環境学研究所 スワヒリ海村社会の漁撈文化 タンザニア・キルワ島における バントゥ起源の内海漁撈とア ラブ起源の外海漁撈
	D4 石川博樹 東京外国語大学 北部エチオピアのエンセーテ ：ブルース説の再検討		E4 ディル・シャレカ 京都大学大学院 エチオピア南部シダマの在来 宗教における社会文化的な場 の変容と継承： 在来知とポジティブな実践（4）		F4 深尾幸市ほか 大阪大学大学院 キンシャサにおけるストリート チルドレンの現状と課題
	D5 藤岡悠一郎 日本学術振興会特別研究員 ナミビア北中部におけるオヴァ ンボ農牧民の在来果樹利用 の変化		E5 板垣順平 大阪芸術大学大学院 エチオピアにおける織技術とそ の在来性 ：在来知とポジティブな実践（5）		
	D6 石原北斗 東京農業大学大学院 ケニアにおける環境保全型害虫 管理技術の開発と普及		E6 伊藤義将 京都大学大学院 エチオピア南西部における森 林資源の利用とその保全 ：在来知とポジティブな実践（6）		
			E7 井関和代 大阪芸術大学 編みから織りへ：エチオピアの 「篩」づくりを事例に ：在来知とポジティブな実践（7）		